平成27年のトラックの重大事故に係る データ集計結果

2017年3月

公益社団法人
全日本トラック協会
Japan Trucking Association

Ⅰ．目的等

１．新たな交通事故統計データ作成目的

国土交通省では平成３０年までの１０年間で、

①交通事故による死者数半減

②交通事故件数半減

②飲酒運転ゼロ

を目標とした「事業用自動車総合安全プラン２００９」を策定し、官民一体となって目標達成に向けた各種交通事故防止対策に取り組んでいる。

平成２６年１１月には、平成２１年から２５年までの５年間の交通事故の発生状況や各種施策の進捗状況等を踏まえ、事業用自動車の事故等削減目標を達成するため「事業用自動車総合安全プラン２００９」の中間見直しを行い、これまでの重点施策の更なる強化を図るとともに、新たな重点施策として、「事業用トラックを第一当事者とする死亡事故件数を、車両台数１万台当たり「２．０」件以下とし、各都道府県（車籍別）の共有目標とする。」ことを掲げた。

こうした新たな目標を達成するためには、これまでの統計分析に加え、更なる詳細な統計・分析を行うことで交通事故の発生状況に即した有効な事故防止対策が樹立することができることから、より確実に事業用自動車の事故等削減目標達成に資するものとするため、国土交通省において、自動車事故報告規則に基づくデータをマクロ的に速報値として統計処理したものを全日本トラック協会が提供を受け、これを車籍別、都道府県別、車両総重量別等のほか、事故惹起事業者が管理している車両台数規模などにも着目し、多角的な視点から交通事故分析を行ったものである。

２．データの概要

（１）調査対象　：　自動車事故報告規則に基づき報告された2015年データのうち
事業用貨物自動車が第1当事者となった死亡事故

（２）対象件数　：　２９７件

別記様式（第３条関係）　　（表）

自　動　車　事　故　報　告　書

国土交通大臣　　殿

自動車の使用者の氏名又は名称
住　　所
電話番号

年　　月　　日　提出

☆発生日時	年　月　日　時　分	☆路線名又は道路名	道　線
天　候	１晴れ　２曇　３雨　４雪　５霧　６その他		
☆発生場所	都道府県　区市郡　区町村　番地		
☆当該自動車の使用の本拠の名称及び位置		☆自動車登録番号又は車両番号	

☆当時の状況

☆◆現場の略図（道路上の事故の場合には車線の区分を明らかにして図示すること。）

☆当時の処置	
☆事故の原因	
☆再発防止対策	
※備考	

（裏）

事故の種類

区分	1 転覆	2 転落	3 路外逸脱	4 火災	5 踏切	6 衝突	7 死傷	8 危険物等	9 車内	10 飲酒等	11 健康起因	12 救護違反	13 車両故障	14 交通傷害	15 その他
☆発生の順															

☆転落の状態　落差　m　水深　m

衝突等の状態　１正面衝突　２側面衝突　３追突　４接触　５物件衝突

当該自動車の概要

☆車名	☆型式	☆車体の形状	☆初度登録年又は初度検査年

事業用：１乗合旅客　２貸切旅客　３乗用旅客　４特定旅客　５一般貨物（イ特別積合せ貨物　ロその他）　６特定貨物　７特定第二種

自家用：１有償貸渡し（レンタカー）　２有償旅客運送　３その他

種別：１普通　２小型　３その他

☆乗車定員　人　☆当時の乗車人員　人

☆最大積載量　kg　☆当時の積載量　kg

kg　kg

許可等の必要性			
	制限外許可	１有	２無
	特殊車両通行許可	１有	２無
	保安基準の緩和	１有	２無
許可等の取得状況	制限外許可	１有	２無
	特殊車両通行許可	１有	２無
	保安基準の緩和	１有	２無

貨物の内容：１土砂等　２長大物品等　３コンテナ　４生コンクリート　５危険物等　６冷凍、冷蔵品　７原木、製材　８引越　９その他

積載危険物等
- 運搬の有無：１有　２無
- 種類：１危険物　２火薬類　３高圧ガス　４核　５ＲＩ　６毒劇物　７可燃物
- ☆品名及び積載量又は放射能の量：品名（　）kg、l　（　）Bq
- イエローカードの携行状況：１有　２無

道路等の状況

種類：１道路（イ高速自動車国道　ロ自動車専用道路等　ハその他）　２その他の場所

☆道路の幅員　m

こう配：１平たん　２上り　３下り

道路の形態：１直線　２右曲り　３左曲り　４交差　５つづら折り

路面の状態：１乾　２湿　３積雪　４氷結

警戒標識の設置：１有　２無　☆当該道路の制限速度　km/h

踏切の状態：１遮断機付き　２警報機付き　３その他

◆営業所及び運行等の状況

☆当時の運行計画（発地・経由地・着地）

☆運送契約の相手方の氏名又は名称、住所等（貸切旅客のみ）

安全性優良事業所の認定（貨物のみ）：１有　２無

運送形態：１下請運送　２その他

☆荷送人の氏名又は名称及び住所

☆荷受人の氏名又は名称及び住所

当時の状況

☆危険認知時の速度　km/h

☆危険認知時の距離　m

☆スリップ距離　m

当該自動車の事故時の走行等の態様：１直進（加速）　２直進（減速）　３直進（定速）　４後退　５追越　６右折　７左折　８駐車　９停車　10転回　11合流　12その他

道路上での事故の場合には事故発生地点：１車道　２歩道　３横断歩道　４路側帯　５路肩　６交差点　７バス停留所　８トンネル　９その他

死傷事故の場合には死傷者の状態：１左側通行　２右側通行　３信号無視　４車道通行　５歩道通行　６横断歩道歩行　７車の直前横断　８斜横断　９飛び出し　10酩酊　11路上作業　12路上遊戯　13乗降中　14安全地帯　15自転車運転　16その他

車両の故障に起因する場合には故障箇所：１原動機（速度抑制装置を除く）　２速度抑制装置　３動力伝達装置　４車輪（タイヤを除く）　５タイヤ　６車軸　７操縦装置　８制動装置　９緩衝装置　10燃料装置　11電気装置　12車枠及び車体　13連結装置　14乗車装置　15物品積載装置　16窓ガラス　17騒音防止装置　18ばい煙等の発散防止装置　19灯火装置及び指示装置　20反射器　21警音器　22視野を確保する装置（後写鏡、窓ふき器等）　23計器（速度計、走行距離計等）　24消火器　25内圧容器及びその附属装置　26運行記録計　27その他

◆乗務員

☆氏名

☆年齢　才

☆経験年数　年　月

運転者

本務・臨時の別：１本務　２臨時

☆事故日以前１ヶ月間に出勤しなかった日数　日

☆乗務開始から事故発生までの乗務時間及び乗務距離　時間　km

☆最近出勤しなかった日から事故日までの勤務日数及び乗務距離の合計：勤務日数　日　乗務距離　km

損害の程度：１死亡　２重傷　３軽傷

シートベルトの着用状況：１着用　２非着用　３非装備

☆交替運転者の配置：１有　２無（交替後の乗務時間及び乗務距離）　時間　km

☆過去３年間の事故の状況：（過去３年間の事故件数）　件（最近の事故年月日）　年　月　日

☆過去３年間の道路交通法の違反の状況：（過去３年間の違反件数）　件（最近の違反年月日）　年　月　日

☆過去３年間の適性診断の受診状況：１有　２無（最近の受診年月日）　年　月　日（適性診断受診場所）

☆最近の健康診断の受診年月日：（最近の受診年月日）　年　月　日

車掌

本務・臨時の別：１本務　２臨時

損害の程度：１死亡　２重傷　３軽傷

シートベルトの着用状況：１着用　２非着用　３非装備

☆◆運行管理者

	運行管理者	統括運行管理者
氏名		
運行管理者資格者証番号		

☆損害の程度
- ◆死亡　人（うち乗客　人）
- ◆重傷　人（うち乗客　人）
- 軽傷　人（うち乗客　人）

※事業者番号

※再発防止対策

Ⅱ．調査結果（事業者）

1．発生県別

・発生県別にみると、「大阪」が最も多く24件となっている。
・次いで、「東京」23件、「神奈川」19件、「埼玉」、「静岡」がそれぞれ15件、「兵庫」14件と続いている。

2. 使用の本拠別

・使用の本拠別にみると、「大阪」が最も多く20件となっている。
・次いで、「埼玉」18件、「愛知」17件、「東京」、「神奈川」、「兵庫」がそれぞれ14件と続いている。

3. 使用の本拠別発生県別

・使用の本拠別発生地別にみると、使用の本拠内での事故は149件、他県での事故は148件となっている。

・使用の本拠以外の他県での事故が49.8%と約半数近くを占めている。

ワースト順位	使用の本拠	件数	割合	内訳		他県発生率
				自県	他県	
1	大阪	20	6.7%	10	10	50.0%
2	埼玉	18	6.1%	8	10	55.6%
3	愛知	17	5.7%	9	8	47.1%
4	東京	14	4.7%	8	6	42.9%
5	神奈川	14	4.7%	10	4	28.6%
6	兵庫	14	4.7%	7	7	50.0%
7	北海道	13	4.4%	11	2	15.4%
8	茨城	13	4.4%	4	9	69.2%
9	福岡	13	4.4%	5	8	61.5%
10	千葉	11	3.7%	6	5	45.5%
11	静岡	11	3.7%	9	2	18.2%
12	岡山	11	3.7%	4	7	63.6%
13	京都	8	2.7%	5	3	37.5%
14	広島	7	2.4%	1	6	85.7%
15	岩手	6	2.0%	3	3	50.0%
	その他	107	36.0%	49	58	54.2%
	合計	297	100.0%	149	148	49.8%

4. 保有車両数別

・保有車両数別にみると、「11～20台」が最も多く57件（19.2%）となっている。

・次いで、「31～50台」52件（17.5%）、「51～100台」50件（16.8%）、「101～200台」38件（12.8%）と続いている。

5. Gマークの取得別

・Gマークの取得別にみると、「無」が最も多く187件（63.0%）と6割以上を占めている。

6. 許可年別

・貨物自動車運送事業の許可年別にみると、「～45年」が最も多く29件（9.8%）となっている。

・次いで、「～21年」22件（7.4%）、「～50年」21件（7.0%）と続いている。

・許可後42年を超える事業者は99件（33.3%）となっており、全体の３割強を占めている。

Ⅲ. 調査結果（概要）

1. 発生月別

・発生月別にみると、「2月」、「12月」が最も多く、それぞれ34件（11.4%）となっている。次いで、「3月」32件（10.8%）、「11月」27件（9.1%）と続いている。

2. 時間帯別

・時間帯別にみると、「～4時」が最も多く41件（13.8%）となっている。次いで、「～12時」37件（12.5%）、「～6時」36件（12.1%）、「～2時」34件（11.4%）と続いている。

・早朝深夜に発生する割合が高い。

3. 天候別

・天候別にみると、「晴れ」が最も多く198件（66.7%）と7割近くを占めている。

・次いで、「雨」54件（18.2%）、「曇」41件（13.8%）、「霧」3件（1.0%）、「雪」1件（0.3%）と続いている。

4. 路面の状態別

・路面の状態別にみると、「乾」が最も多く235件（79.1%）と8割近くを占めている。

・次いで、「湿」60件（20.2%）、「積雪」2件（0.7%）と続いている。

5. 道路の形態別

・道路の形態別にみると、「直線」が最も多く163件（54.9%）と5割以上を占めている。

・次いで、「交差」91件（30.6%）、「左曲り」25件（8.4%）、「右曲り」18件（6.1%）と続いている。

6. 道路種類別

・道路種類別にみると、「その他道路」が最も多く224件（75.4%）と7割以上を占めている。次いで、「高速自動車国道」55件（18.5%）と続いている。

・両者で全体の9割以上を占めている。

Ⅳ. 調査結果（車両）

1. 車両総重量別

・車両総重量別にみると、「≦25.0t」が最も多く101件（34.0%）と3割以上を占めている。

・次いで、「≦8.0t」72件（24.2%）と続いており、両者で全体の5割以上を占めている。

2. 最大積載量別

・最大積載量別にみると、「≦3.0t」が最も多く56件（18.9%）と2割程度を占めている。

・次いで、「≦14.0t」49件（16.5%）、「≦2.0t」、「≦13.0t」がそれぞれ31件（10.4%）、「≦4.0t」27件（9.1%）と続いている。

Ⅴ．調査結果（運転者）

１．運転者の年齢別

・運転者の年齢別にみると、「40～49歳」が最も多く103件（34.7%）と3割以上を占めている。

・次いで、「50～59歳」66件（22.2%）、「30～39歳」59件（19.9%）、「60～64歳」32件（10.8%）と続いている。

２．運転者の経験年数別

・運転者の経験年数別にみると、「10年以上」が最も多く163件（54.9%）と5割以上を占めている。

・次いで、「10年未満」45件（15.2%）、「1年未満」35件（11.8%）と続いている。

3. 運転者の年齢別経験年数別

・運転者の年齢別経験年数別にみると、40代以上は経験年数「10年以上」が多い。
・30代は「1年未満」、「10年未満」及び「10年以上」が多く分布がばらついている。
・30代未満では、「1年未満」が多く、事業用貨物自動車の運転者に選任されてから短い期間で事故を惹起している。

Ⅵ. 調査結果（事故状況）

1. 事故種類別

・事故種類別にみると、「死傷」が最も多く173件（58.2%）と6割近くを占めている。次いで、「衝突」100件（33.7%）と続いており、両者で9割以上を占めている。

・「衝突」の内訳をみると、「追突」が最も多く50件（50.0%）と半数を占めている。次いで、「側面衝突」27件（27.0%）、「正面衝突」12件（12.0%）と続いている。

（1）事故種類別　道路の種類別

- 事故種類別の「衝突」と「死傷」を道路の種類別にみると、いずれも「その他道路」が最も多く、それぞれ54件（54.0%）、153件（88.4%）となっている。
- 「衝突」の内訳をみると、「追突」は「高速自動車国道」の割合が高く、「正面衝突」、「側面衝突」、「接触」、「物件衝突」は「その他道路」の割合が高い。

	高速自動車国道	自動車専用道路等	その他道路	その他の場所	合計
転覆	3	1	4		8
転落	1		5		6
路外逸脱					
火災		1			1
踏切					
衝突	40	6	54		100
死傷	10	10	153		173
危険物等					
車内					
飲酒等					
健康起因	1				1
救護違反			8		8
車両故障					
交通障害					
その他					
合計	55	18	224		297

	高速自動車国道	自動車専用道路等	その他道路	その他の場所	合計
正面衝突	1		11		12
側面衝突	6	1	20		27
追突	31	5	14		50
接触	1		7		8
物件衝突	1		2		3
合計	40	6	54		100

（2）事故種類別　運転者の年齢別

- 事故種類別の「衝突」と「死傷」を運転者の年齢別にみると、いずれも「40～49歳」が最も多く、それぞれ39件（39.0%）、53件（30.6%）となっている。
- 「衝突」の内訳をみると、「正面衝突」、「側面衝突」、「追突」はいずれも「40～49歳」の割合が高い。

	20歳以下	21～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
転覆			1	1	2	2	1	1	8
転落			1	1	3	1			6
路外逸脱									
火災					1				1
踏切									
衝突		5	2	17	39	18	11	8	100
死傷	1	2	10	39	53	45	19	4	173
危険物等									
車内									
飲酒等									
健康起因								1	1
救護違反			1	1	5		1		8
車両故障									
交通障害									
その他									
合計	1	7	15	59	103	66	32	14	297

	20歳以下	21～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
正面衝突		2	1	2	3	2	2		12
側面衝突		1	1	4	12	6	2	1	27
追突		2		8	21	10	4	5	50
接触				2	2		2	2	8
物件衝突				1	1		1		3
合計		5	2	17	39	18	11	8	100

（3）事故種類別　運転者の経験年数別

- 事故種類別の「衝突」と「死傷」を運転者の経験年数別にみると、いずれも「10年以上」が最も多く、それぞれ51件（51.0%）、100件（57.8%）と5割以上を占めている。
- 「衝突」の内訳をみると、「正面衝突」、「側面衝突」、「追突」は「10年以上」の割合が高い。「接触」は「10年未満」の割合が高い。

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計
転覆	3		1				4		8
転落	1	1					4		6
路外逸脱									
火災		1							1
踏切									
衝突	14	7	2	5	4	17	51		100
死傷	16	11	7	10	3	26	100		173
危険物等									
車内									
飲酒等									
健康起因							1		1
救護違反	1			1	1	2	3		8
車両故障									
交通障害									
その他									
合計	35	20	10	16	8	45	163		297

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計
正面衝突	2	1				2	7		12
側面衝突	4		2	3	2	2	14		27
追突	7	5		2	1	9	26		50
接触					1	4	3		8
物件衝突	1	1					1		3
合計	14	7	2	5	4	17	51		100

(4)事故種類別　車両総重量別

・事故種類別車両総重量別にみると、「衝突」及び「死傷」のいずれも「≦8.0t」及び「≦25.0t」クラスの件数が多い。

2. 動態別

・動態別にみると、「自車の直進走行時」が最も多く130件、次いで、「追突」58件、「運転操作」37件、「左折する際」35件、「右折する際」31件と続いている。

・詳細項目でみると、「追突」が最も多く57件（19.2%）を占めている。次いで、「直線走行時」に歩行者、自転車及びバイク等が「車線上に」43件（14.5%）、「直線走行時」に「右から」、「左折する際」に「左から」がそれぞれ32件（10.8%）と続いている。

【右折する際の動態イメージ】

【左折する際の動態イメージ】

（1）右折する際

・右折する際の死亡事故31件をみると、「左方歩行者」が多く10件（32.3%）となっている。

・「左方歩行者」の事故を車両総重量別にみると、「≦25.0t」が最も多く5件、次いで、「≦8.0t」3件と続いている。

（2）左折する際

・左折する際の死亡事故35件をみると、「左方自転車」が多く28件（80.0%）と8割を占めている。

・「左方自転車」の事故を車両総重量別にみると、「≦25.0t」が最も多く12件、次いで、「≦20.0t」6件と続いている。

3. 当該道路の制限速度別

・当該道路の制限速度別にみると、「～50km/h」が最も多く91件（30.6%）となっている。

・次いで、「～60km/h」74件（24.9%）、「～40km/h」70件（23.6%）と続いている。

4. 危険認知時の速度別

・危険認知時の速度別にみると、「～10km/h」が最も多く53件（17.8%）となっている。

・次いで、「～60km/h」47件（15.8%）、「～50km/h」39件（13.1%）、「不明」29件（9.8%）と続いている。

5. 危険認知時の距離別

・危険認知時の距離別にみると、「0m」が最も多く108件（36.4%）となっている。

・次いで、「不明」48件（16.2%）、「～5m」46件（15.5%）、「～10m」35件（11.8%）と続いている。

6. スリップの距離別

・スリップの距離別にみると、「0m」が最も多く187件（63.0%）と6割以上を占めている。

・次いで、「不明」56件（18.9%）、「～2m」11件（3.7%）、「21m～」10件（3.4%）と続いている。

7. 走行の態様別

・走行の態様別にみると、「直進（定速）」が最も多く136件（45.8%）と5割近くを占めている。

・次いで、「直進（減速）」41件（13.8%）、「左折」38件（12.8%）、「右折」35件（11.8%）、「直線（加速）」30件（10.1%）と続いている。

8. 事故発生地点別（道路上での事故）

・事故発生地点別にみると、「車道」が最も多く194件（65.3%）と6割以上を占めている。

・次いで、「交差点」50件（16.8%）、「横断歩道」42件（14.1%）と続いている。

９．死傷者の状態別

・死傷者の状態別にみると、「不明」が最も多く110件（37.0%）となっている。

・次いで、「自転車運転」58件（19.5%）、「その他」31件（10.4%）、「横断歩道歩行」30件（10.1%）と続いている。

Ⅶ. 調査結果（運行状況等）

1. 乗務開始から事故発生までの乗務時間別

・乗務開始から事故発生までの乗務時間別にみると、「～2時間」が最も多く41件（13.8%）となっている。

・次いで、「～1時間」38件（12.8%）、「～4時間」34件（11.4%）と続いている。

・乗務後、短時間で死亡事故を惹起している割合が多い。

2. 乗務開始から事故発生までの乗務距離別

・乗務開始から事故発生までの乗務距離別にみると、「～20km」が最も多く43件（14.5%）を占めている。

・次いで、「～60km」28件（9.4%）、「～40km」25件（8.4%）、「～80km」24件（8.1%）、「～400km」22件（7.4%）と続いている。

・乗務後、短距離で死亡事故を惹起している割合が多い。

3. 最近出勤しなかった日から事故日までの勤務日数別

・最近出勤しなかった日から事故日までの勤務日数別にみると、「2日」が最も多く72件（24.2%）を占めている。
・次いで、「1日」63件（21.2%）、「3日」47件（15.8%）、「4日」40件（13.5%）と続いている。
・休日明け1～2日で死亡事故を惹起している割合が高い。

4. 最近出勤しなかった日から事故日までの乗務距離別

・最近出勤しなかった日から事故日までの勤務距離別にみると、「～1,500km」が最も多く45件（15.2%）を占めている。

・次いで、「～100km」42件（14.1%）、「～300km」29件（9.8%）、「～400km」27件（9.1%）と続いている。

・休日明け、比較的短い乗務距離で死亡事故を惹起している割合が多い。

5. 過去3年間に惹起した事故件数別

・過去３年間に惹起した事故件数別にみると、「なし」が最も多く241件（84.9%）と8割以上を占めている。

・事故を惹起したことのある件数は44件（14.8%）となっている。

6. 最近の事故発生年月からの経過月数別

・事故発生年月からの経過月数別にみると、上記の事故惹起者の中では、「～2ヶ月」、「～4か月」、「～20ヶ月」が最も多く、それぞれ6件（2.0%）となっている。

・1年以内に事故を惹起していた運転者の割合が高い。

7. 過去3年間の道交法の違反件数別

・過去３年間の道交法の違反数別にみると、「なし」が最も多く165件（55.6%）と5割以上を占めている。

・違反をしたことのある件数は118件（39.7%）となっている。

8. 最近の違反年月からの経過月数別

・事故発生年月からの経過月数別にみると、上記の事故惹起者の中では、「～28ヶ月」が最も多く10件（3.4%）となっている。

・次いで、「～6ヶ月」、「～18ヶ月」がそれぞれ9件（3.0%）と続いている。

9. 過去3年間の適性診断の受診別

・過去３年間の適性診断の受診別にみると、「有」が最も多く181件（60.9%）と6割以上を占めている。

10. 最近の受診年月からの経過月数別

・事故発生年月からの経過月数別にみると、上記の受診者の中では、「～22ヶ月」が最も多く18件（6.1%）となっている。

・次いで、「～6ヶ月」17件（5.7%）、「～2ヶ月」16件（5.4%）、「～4ヶ月」15件(5.1%）と続いている。